

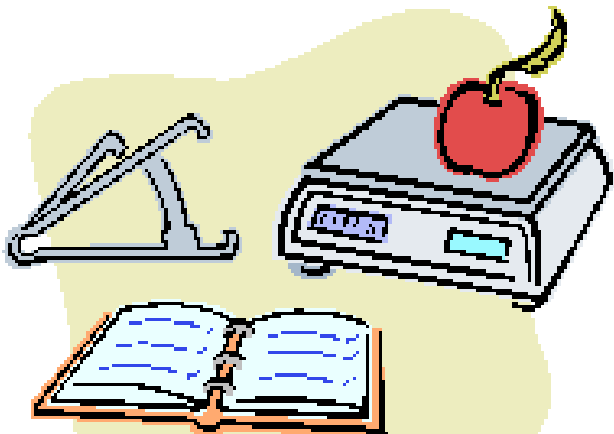
## ★「自分らしい生き方」について考えよう

◇伊藤さんの学級では「自分の生き方」について考えるために、評論の文章を読んで感想を交流することになりました。伊藤さんは「自分らしく生きる」というテーマで次の文章を読んで、感想を考えることにしました。

❶「あの人はいつも自然体でいいよね」という話を聞くことがある。そう言われた人を見ると、堅苦しくない服装、気取らずフランクな態度といった印象を受けることが多い。他人が見て良いと感じること自体に問題はないのだが、「自然体」という言葉で表現して良いのだろうかという部分に引っかかるものがある。「自然体」という言葉は何を意味するのか、という点だ。

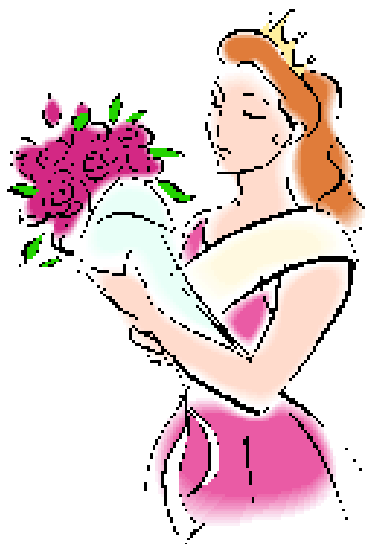
❷「自然体」という言葉そのものから考えると、その人なりに無理せずありのままに振る舞っている姿を想像させるが、実際はどうだろう。ここで、あなたやその周りの人に「自然体の人」と言われてイメージする人を挙げてもらおうとする。太った人は出てくるだろうか。無精ひげの人や、きちっとした服装をした人はどうだろう。きっと、そういった人はイメージされることはなく、この文章の冒頭で挙げたような人が出てくることだろう。しかし、人間には個性があり、ありのままの姿というのは各自で違っているのがまさに「自然」なことのはずだ。だとするならば、各自がイメージしたものが一つの姿に収束していくのは逆に「不自然」なことになる。そう考えてみると、「自然体」とはいったい何なのかということになる。

❸あるドラマでのことである。「自然体」のイメージを売りにしている女優が、そのイメージを維持するために、ダイエット等の自己管理を徹底する。しかもそうした努力する姿を決して他者には見せずに、自分はもともとこういう人なのだ、何も無理しなくてもこの美貌とスタイルなのだ、つまりそれが自分の「自然体」なのだという演技を続ける。そのドラマの中にこういうシーンがある。映画の撮影現場にキーキの差し入れがあり、女優はそれをすすめられる。カロリーオーバーが気になるのだが、食事制限している姿は「自然体」らしくないということ、無理して食べる。その後、誰にも見られないところで過度な運動をしてカロリー消費を図るのである。こうしたことの結果、女優は無理がたたってノイローゼになり、精神科に相談するという流れでストーリーが続いていく。彼女にとって「自然体」とは自然なことではなく、無理して演じるものだったのである。



四 このエピソードは「自然体」がすでに、一つの「型」を表す言葉になっていることの現れと言えるだろう。その人らしく自然に振る舞うことではなく、ファッション雑誌等によって世の中に共通認識された「自然体」という状態を表しているのである。そのため、「自然体」を目指す女性は体型維持のためのダイエットに励んだり、ナチュラルメイクの仕方を学んだり、それらしく見える衣装を選んだりする。その過程にはすでに自分らしい自然さはなく、目標となる一つの「型」に向かって自分らしさを消して行く作業が続いているだけだ。

五 ドラマのラストで女優は、「自然体」の意味を考え直す。ダイエットを頑張るのが自分にとって自然なこと、食事制限をするのがありのままの自分なのだと考えられるようになり、そうした姿を周りに隠すことなく生き生きと仕事を続けていく。私たちが「自然体」に魅力を感じるのは、その「型」が魅力的だからではない。ありのままの自分を受け入れた上で、自分に対して不満がある部分を努力で補っていかうとする前向きな姿勢に憧れを抱くからなのだと思う。見目麗しくても怠惰ならば幻滅だし、見た目はパツとしなくても努力を続ける姿は輝いて見える。見栄を張らずにありのままの自分で、そして現状に甘んずることなく自身を高める努力を続けること。それが「自然体」の真の姿であり、我々が魅力を感じる部分なのではないだろうか。



(高橋智子「生き方のヒント」より)

## ★「自分らしい生き方」について考えよう

問一 伊藤さんは 収束 という言葉の意味がわからず辞書で調べたところ、「分かれていたものがまとまって、おさまりがつくこと。またはおさまりをつけること。」とありました。これを参考に、本文の中で収束していくと書かれているのは何かを考え、ア～オから一つ選びなさい。

【論の展開の上で重要な役割を果たしている語句に注意しながら読む】

- ア 人々が頭に思い描く自然体の様子
- イ 人々がイメージする個性のあり方
- ウ 人々のさまざまな体型や特徴
- エ 人々が考える理想とする自分の姿
- オ 人々の持っている個性の多様さ

問二 伊藤さんはこの文章を読んで、筆者は自分の考えを読み手に伝えるために、次の様に段落を構成していると考えました。①③には段落の番号を、Aには後のア～オから最も適切なものを選びなさい。なお、①③には複数の段落番号が入ってもかまいません。

【各段落が文章全体の中で果たしている役割をとらえる】

この文章では A という問題提起を ① 段落で行い、それに対する論証を ② 段落、提起された問題に対するまとめを ③ 段落で行っている。

- ア 「自然体」という言葉は何の魅力があるか
- イ 「自然体」を無理なく行うことはできるか
- ウ 「自然体」の持つ本当の意味とは何なのか
- エ 「自然体」で生きていくことは可能なのか
- オ 「自然体」にはどんなイメージがあるのか



A
①
②
③

問三 筆者の論の展開を追いながら文章を読み、読み取ったことを「序論・本論・結論」の三段階に分け、見出しを付けて整理しました。各部分の見出しとして最も適切なものを、それぞれア～ウから一つ選びなさい。

【叙述の順序に注意して読む】

<p>【序論】</p> <p>ア 「自然体」という言葉の現状の分析</p> <p>イ 「自然体」という言葉の疑問点の洗い出し</p> <p>ウ 「自然体」という言葉の意味の掘り下げ</p>	<p>【序論】</p> <p>□</p>
<p>【本論】</p> <p>ア 空想の「自然体」の持つイメージの分析</p> <p>イ 理想の「自然体」の持つ姿の具体化</p> <p>ウ 現実の「自然体」の持つイメージの掘り下げ</p>	<p>【本論】</p> <p>□</p>
<p>【結論】</p> <p>ア 「自然体」という生き方のあるべき姿</p> <p>イ 「自然体」という生き方の表現の仕方</p> <p>ウ 「自然体」という生き方の型の具体化</p>	<p>【結論】</p> <p>□</p>

← ← ←



問四 伊藤さんは、この文章で筆者が行った工夫として「ドラマの場面を具体例として用いる」というものがあると感じました。筆者がこのように工夫した理由として適切だと思われるものを、次のア～オから一つ選びなさい。

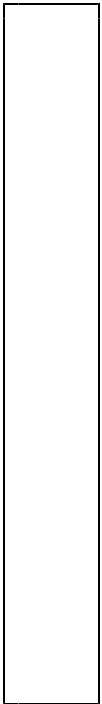
【文章の構成や展開の工夫について自分の考えをもつ】

- ア ドラマの人物設定を読み手と同一にすることで、読み手がドラマの人物と同じ行動をしていることを気付かせることができる考えたから。
- イ ドラマの人物が「自然体」への考え方を変えていく姿を取りあげること、筆者の意見に対して読み手が反論することを止めることができる考えたから。
- ウ ドラマの架空の場面を読み手の現実の場面と同じにすることで、ドラマの登場人物が現実にいるかのように思わせることができる考えたから。
- エ ドラマの人物を実際の人物のように設定することで、読み手がドラマの人物に親近感を持って読むことができるようになったと考えたから。
- オ ドラマの人物が「自然体」を目指して無理をする具体的な行動を取りあげること、読み手の現実の経験と重ねることができると考えたから。

□

◇伊藤さんはこの文章を読んで感じたことについて、感想を書くことにしました。その際、先生から「自分の経験を交えること」という指示があり、それを意識しました。

私はこの文章を読んで、「自分らしく生きる」ということについて考えさせられました。「自分らしく」とは、虚勢を張らずにありのまま生きる、ということだと思います。でも、それをするのは難しいことです。ありのままの自分を受け入れられなかった経験が私にもあります。



自分の自信のない部分を見られるのは勇気がいることですが、それが自分なのだと思え入れられれば、本当に強い人になれるのではないかと思います。そして、そうやって生きている人こそ「自分らしく」生きている人なのだと思います。



問五 文章中の空欄には、伊藤さんの経験を交えた文章が入ります。次のア～エのうち、空欄に入る伊藤さんの経験として最も適切なものの一つを選びなさい。

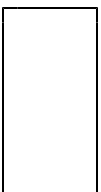
【書き手の考え方について、自分の知識や体験と関連付けながら考えをもつ】

ア 陸上記録会の時、長距離走より短距離走の方が得意だったので、百メートル走への出場を決めたこと。

イ テストの時、一生懸命勉強して点数が低かったらカッコ悪いので、勉強をしていないふりをしたこと。

ウ 文化祭の劇の時、ステージで演技するのは得意ではなかったので、道具係として衣装を作ったこと。

エ ソフトボール部の大会にどうしても勝ちたかったので、土曜日や日曜日も自主的に練習を行ったこと。



【読む5 「自分らしい生き方」について考えよう】

- 問一 ア 問二 A ウ ① ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ② ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ③ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
- 問三 【序論】ア 【本論】ウ 【結論】ア 問四 オ 問五 イ

解説 問一

意味のわからない語句について辞書で調べた時には、辞書的な意味を理解した上で、その語句が文章中ではどのような意味を表しているのかを考える必要があります。特に抽象的な意味を持つ言葉の時には、文脈から個別の意味をとらえていきましょう。

問二

文章全体を大きくとらえ、おおまかな流れで意味をつかむと、書き手の一番言いたいことが見えてきます。その際、段落の構成が一つの手がかりになりますので、それぞれの段落がどのような内容になっていて、どのようにつながり合っているのかを意識しながら読むようにすると、大きな流れをつかむことができます。

問三

説明的な文章の構成の基本の形として「序論・本論・結論」があり、それぞれ次のような役割になっています。

序論：話の導入。書き手の意見や疑問を提示する。

本論：書き手の意見の根拠を示す部分。具体例等が用いられる。

結論：書き手の意見をまとめる。

この形を意識して説明的文章を読んできると、内容がつかみやすくなります。

問四

この問題では、「具体例」を用いたのは文章の内容を読み手の経験と重ね合わせることで説得力を持たせられるからだと考えられます。

問五

読み取った内容を自分の意見に生かす時には、内容を文章上のことだけにとどまらせず、自分の知識や体験とつなげることが重要になります。その際、自分だけの特別な体験につなげるより、多くの人が共感できる一般的な体験とつなげるように意識しましょう。